

令和元年度 青少年のための出前講座 実施報告

■宮城学院女子大学「命と心の授業」

講座名	日程	目的・授業内容	講師	会場・人数
命と心の授業	令和元年 7月18日(木) 16:20~17:50 5限目	「老いるということ」(講話) 「浦島太郎の気持ち」(体験) (高齢者疑似体験プログラム) 「ホスピタリティマインドとは」 (講話) 高齢者の心と体の理解とホスピタリティマインドの育成	石上 節子 氏 元東北大学病院 看護師長	宮城学院 女子大学 教育学部 教育学科 2年生 「学校看護学」 の一環 27名
		「命を考える」(講話) 緩和ケアの医療現場や一人一人の命を最期まで支える様々な取り組み、がんの告知や親の看取りの具体的な話を聞くことで、命のはかなさ大切さ、生きていることへの感謝を意識させる。	高橋 通規 氏 仙台 医療センター 緩和ケア内科 医長	

大学での実施は、今年度初めての取り組みとなりました。宮城学院女子大学の門間典子教授（教育学部教育学科健康教育専攻）の依頼により「学校看護学」の一環として実施しました。対象は、学校の養護教諭を目指す学生です。これまでライフステージごと（新生児～老年）の看護、病気の種類と看護の視点などについて学んできたので、この授業により高齢者の心と体の理解や「緩和ケア」と「ターミナルケア」の違いなどの学びを深める機会になればということで依頼をいただきました。

事前打ち合わせで、学生は文系ということもあり人体に関する知識がほとんどなく、高齢者のイメージも少ない、また、テレビやニュースも自分の興味のあるものしか見ないので社会状況に対する意識が低い傾向にあるというお話を伺い、この授業の体験や講話にどのような反応があるか懸念していましたが、真面目に積極的に取り組んでくれました。

高齢者や病気の方々の背景にある生き様や普段の生活風景などに思いを寄せ、これからの生き方を考えるきっかけにもなったと思います。



■生徒の感想（アンケートより）

- ・実際に体験してみて、その不自由さに気づくと、日常で困っている人を見かけたら何の援助を必要としているかが分かり、私たちも日常的に手伝っていこうと思った。地域全体で支えることによって安心して暮らせる町づくりできると考えた。また、死は今まで遠いものであったが、もしかしたら自分にもと考えるきっかけになった。死を理解すること、備えることはとても大切だと改めて感じる事ができた。死ぬ前に後悔しないように今からの生活を見直そうというきっかけにもなった。
- ・事前にイメージしていたよりも実践的に丁寧に授業をして下さって非常に分かりやすく学びにつながった。希望と現実の差が人それぞれにあることがわかり、緩和ケア、「いのち」を考えるとすることは深いものだなと感じた。このような授業をもっとたくさんの人に広めていきたいなと感じた。
- ・「死に備える」講話では、死に向かっていく人との関わり方を考えさせられたので、今ある時間を当たり前のことと思わず、残された時間を倒せつに接していこうと思うことができました。
- ・辛さ・苦しさは人それぞれだと思うので、そういった一人一人の辛さと苦しさを分かってあげられる人間になりたいと思った。
- ・まだ若い私たちが普段の生活の中では絶対に感じる事のない不便さを感じ、高齢者の立場に立って様々なことを考えることができました。
- ・教師として心のケアをどのようにしていくのがいいか、考える機会になった。
- ・祖母も祖父も緩和ケアを受けていて、関連する本を読んだりインターネットで調べたりしていましたが、病棟が作られた背景や、がんを含めた不治の病に対する医療の発展のことは知らなかったもので、とても興味深かったです。また今日学んだことは、高齢の人や看護されている人だけに限らず、友達や親と関わる時にも活かせると思いました。そして、私自身も命を大切に、毎日を大切にこれから生きて、一瞬一瞬を積み重ねていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・死について学ぶことは、これからの人生について大切なことなので、直接病院の先生からお話を聞くことができうれしかったです。
- ・緩和ケアでは、本人含め家族全体も一緒にケアしていくということで、周りの正しい理解も重要だと感じました。
- ・わかりやすかったのはもちろん、とてもためになる講話ばかりでした。ホスピタリティマインドという言葉がとても印象に残りました。「自らを謙虚にして、人を敬い、相手を心から歓迎しようと思う心持ち」というのは、高齢者はもちろん、どんな相手でも必要なことであると感じました。自分が年老いたなあと感じた時に、生きている意味を見失わないようにしたいです。
- ・意見を発表した後のフォローしてくださった言葉が嬉しかった。心温まる授業だった。
- ・将来、養護教諭になったとき、心の問題を抱えた生徒が保健室に来ると思います。その時に役立てることができればと思います。